

高等学校第 1 学年情報科学学習指導案

日時 平成25年 月 日 ()

指導者 情報科 教諭 有馬 千秋

- 1 単元名 望ましい情報社会を構築するために
第1節 情報化が社会に及ぼす影響と課題

2 単元について

(1) ねらいについて

情報化を続ける社会の中で、情報通信ネットワークに関する知識はすぐに古いものになってしまう。この情報化社会の中では、常に情報を正しく把握し、様々な課題に主体的に対応できる力が必要となってくる。本単元では、SNSや電子商取引といった情報化によって生活が充実している「光」の部分と、ネット詐欺や情報漏洩といった「影」の部分进行学习していく中で、望ましい情報社会を構築しようとする態度を育てていきたい。そのためにも、生徒が自分のこととして捉えることができるよう、身近な例を挙げながら、考え、発表できる機会を設けていく。

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 情報化によって起こりえる影響や課題を適切に予測できるよう、発問を繰り返しながら考える機会をつくる。
- 情報通信ネットワークを利用したコミュニケーションに馴染みのない生徒にも理解しやすいよう、具体的な資料を掲示しながら説明する。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・ 前時の復習をプレゼンテーションで掲示し、確認する。
- ・ 例としてSNSの画面を掲示し、イメージをふくらませる。
- ・ なぜSNSから個人情報漏れていくのか、個人情報保護への意識が変わっていく過程を疑似体験しながら考えていく。

3 単元の目標

情報化が社会に及ぼす影響と課題について理解し、主体的に解決をするために必要な知識や態度を育てる。

4 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・技能	技能	知識・理解
情報化の特徴を冷静に読み解き、主体的に問題を解決しようとする。	社会の情報化によって起こる恩恵（光）と不利益（影）を見つけ、起こりうる問題を想像することができる。	情報化社会で流通しているコンテンツを効果的に活用することができる。	主体的に問題解決するために、プライバシー権や肖像権、著作権法を知り、改正された背景を正しく理解する。

5 指導計画及び評価の基準（4時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準・評価方法
1	社会で流通しているコンテンツを挙げ、情報化したことで起こる恩恵（光）と不利益（影）を考える。	不利益だけに注目せず、恩恵の部分をよく確認した上で、正しく利用する意識を持たせる。		○	○		恩恵（光）と不利益（影）を見つかることができるか。（ワークシート）
2・3	知的財産権や著作権の特徴を正しく理解した上で、改正された著作権法からこれからの社会の流れを予想する。	著作権法が改正された理由を、討論を通じて考えさせる。	○	○		○	これからの社会の流れと、それに伴って変化する著作権法の内容を予想できているか。（ワークシート）
4 本時	情報通信ネットワークにおけるSNSの特性を理解し、個人情報保護への意識を高めていく。 情報化する社会で物事を多面的に捉え、起こりうる危険を想像する。	安直に「利用しない＝安全」という結論にならないよう発問に注意する。	○	○			多面的な視点で危険を予想できているか。（発問） 個人情報保護を正しく理解し、周囲に流されない態度が培われているか。（ワークシート）

6 本時の展開

- （１）目標 情報通信ネットワークにおけるSNSの特性を理解し、個人情報保護への意識を高めていく上で、情報化する社会で物事を多面的に捉え、起こりうる危険を想像する力を身につける。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問(T) 予想される児童の反応(C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。 (T)個人情報とは何でしたか。 (C)名前や住所、電話番号。個人を識別できる情報。	・前時の内容を掲示する。	・プロジェクトで前時の内容を掲示する。
	課題（めあて）個人情報の在り方について考える。		
展開 40分	2 インターネットでのコミュニケーションについて確認する。 (T)コミュニケーションにはどんなものがあるか。 (C)メール、掲示板、チャット、Facebook、mixi、LINEなど。 3 SNSを例に個人情報について考える。 (T)SNSに登録された情報から予想される人物像を考えてみよう。 (T)登録された情報から起こりうる危険を挙げてみよう。 SNSに登録された情報 (1)1日目…氏名、出身地、出身高校、生年月日 (2)5日目…性別、居住地、職歴、顔写真 (3)1ヶ月後…交際相手、今後の予定がわかる日記、自宅周辺の写真 【言語活動】（設定の意図） SNSの「光」と「影」の部分を正しく理解し、安全にコミュニケーションツールとして活用する意識を持つ。 (T)公開してよい情報とそうではない情報の境目はどこだろう。	・日頃利用しているコミュニケーションの種類や形態について発問しながら確認する。 ・登録された日の情報から人物像や、その人物に起こりえる危険を想像させる。 ◆思考・表現（プリント） B基準 多面的な視点で危険を予想できているか。 A基準 個人情報を正しく理解し、登録された情報を組み合わせることで空き巣被害に遭う危険まで予測できているか。 ＜B基準に達していない生徒への手立て＞ ・第三者として想像するよう促す。 ・安直に「利用しない＝安全」という結論にならないよう発問に注意する。 徹底指導（ポイント） いくつか組み合わせることで本人を識別できる情報＝個人情報	プロジェクトでSNS画面を表示する。

終 末 5 分	4 本時の内容を確認する。	・最近のニュースをプロジェクト で掲示し、個人情報保護の意識 を持たせる。	
------------------	---------------	---	--